

国土強韌化に資する民間取組事例集

平成31年4月
内閣官房国土強韌化推進室



趣旨

これから国土強靱化に資する取組を行う方々に参考にしていただくため、国土強靱化に関して先導的な取組を収集して紹介する。

民間の取組事例集の概要

- 平成31年4月15日、国土強靱化推進室HPに、公募等により収集した主体的な取組49事例を公開
- 技術等の先進性、地域特性、災害特性のある取組を抽出
- 事例は、以下の情報を掲載

- ・取組の目的・テーマ
- ・取組者の情報(業種、実施地域、事業者としての立場)
- ・取組の概要
- ・取組の特徴(特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点)
- ・取組の平時における利活用の状況
- ・現状の課題、今後の展開
- ・周囲の評価 など

- 平成27年から平成30年の472事例もHPに掲載中

(6つのテーマ)

初動体制の構築

重要資産の防護と回復力の強化

顧客の生活を支える

普及啓発・人材育成

被災者等の支援

地域との連携

コラム

(事例件数)

▶▶ 6件

▶▶ 5件

▶▶ 19件

▶▶ 10件

▶▶ 1件

▶▶ 4件

▶▶ 4件

※事例は、国土強靱化の取組を広める上で参考となる模範性等のあるものを収集しており、商品やサービスの優位性、協定の質等は評価していない。

これまでの流れと今後の展開

- 平成27年6月、28年5月、29年5月、30年6月、31年4月公開
- 来年以降も公募等により国土強靱化に資する取組を収集する等して事例集を公表していく予定

国土強靱化 民間の取組事例集の
ページ

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/h31_minkan/

「民間の取組事例集」の具体事例（抜粋）

自分を守る！

AIアナウンサーによる災害報道

No.010 NPO法人エフエム和歌山（和歌山県）

■取組の概要

災害発生時、平成29年に開発した人工知能（AI）アナウンサーを活用し、災害情報を絶えず提供。

■取組の特徴

28の国と地域の言語へ自動翻訳し、再生することができる。

PCとインターネット環境があれば、どこからでもニュース原稿を作成することにより、放送ができる。

■取組の平時における利活用の状況

日ごろよりニュースや天気予報、音楽番組の全自動放送に活用。

システムをクラウド化し、約20局で使用されている。



AIアナウンサーの自動翻訳原稿

顧客を守る！

西日本豪雨災害現場における ロボットスーツを活用した災害支援

No.024 CYBERDYNE株式会社（岡山県・広島県）

■取組の概要

平成30年に発生した西日本豪雨災害において同社製品を活用した災害支援を行った。

■取組の特徴

重機の入れない場所での人手による重量物の撤去時など、ロボットスーツは、作業者の腰部の負担を低減させる。岡山県高梁市の現場では、災害復興ボランティア十数人にロボットスーツが貸与され、同社の社員と共に3日間に渡り復旧作業をサポート。

■取組の平時における利活用の状況

医療・介護現場や物流倉庫など重量作業のある環境で働く人の腰部にかかる負担の低減のために活用されている。



災害現場でロボットスーツを装着して土砂を運び出す
（H30年7月15日 岡山県倉敷市真備町＝時事通信）

地域を守る！

全国の工務店が地域の災害拠点に 「地域防災ステーションプロジェクト」

No.035 日本木造住宅耐震補強事業者協同組合

■取組の概要

全国の工務店（約1,300社）が災害時の手助けや情報伝達のハブ等を行う地域の防災拠点となる「地域防災ステーション」プロジェクトを展開。

■取組の特徴

工務店が“助けられる側”ではなく“助ける側”となるよう備蓄に努めるなど自社の防災意識を高めると共に、地域への防災情報発信も行い地域全体の防災力の向上を図る取組。

■取組の平時における利活用の状況

会員企業が防災情報誌「まもりとそなえ」を地域住民へ継続的に配布することで、地域での認知度を向上させることができ、地域住民から住生活に関する相談をされるようになっている。



「地域防災ステーション」に推奨されるパッケージ